

令和4年7月19日
国立大学法人大分大学

遺伝子組換え動物管理区域外での遺伝子組換えマウスの捕獲について

令和4年3月25日（金）に大分大学挾間キャンパス動物実験施設外の廃棄物保管庫における廃棄袋の中で、マウス生体1匹が発見されました。学内調査の結果、4月7日（木）に当該マウスが遺伝子組換えマウスであることが判明しました。

その後、本事案について経緯や原因を調査し、本学動物実験委員会及び遺伝子組換え実験安全委員会における再発防止策の検討を行いました。

当該マウスは既に同施設の管理区域内へ移動させており逃亡の恐れはなく、他のマウスが動物実験施設外へ出ていないことを確認しております。

本来法令等に基づき厳重に管理すべき遺伝子組換えマウスが、管理区域外で発見されたことについて、深くお詫び申し上げます。

本学では、このたびの事態を重く受け止め、適正な管理体制を構築し、今後このようなことがないように再発防止に最善を尽くしてまいります。

1. 発生場所

大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地 大分大学挾間キャンパス廃棄物保管庫

2. 発見されたマウス

遺伝子組換えマウス（1匹（黒毛色、体重4g、推定2～3週齢の離乳前の幼マウス））

※当該遺伝子組換えマウスについては、哺乳動物等に対する病原性等はなく、P1Aレベルの拡散防止措置（閉鎖環境の中で遺伝子組換え動物を扱う際の拡散防止措置として、必要な措置が最も簡易なもの。）で取扱い可能なもの。

3. 発見の経緯・状況

3月25日（金）15時頃、廃棄物保管庫内の感染性廃棄物廃棄袋内に生きたマウスが発見され、捕獲した。研究マネジメント機構研究支援センター動物管理部門による動物実験施設の入館記録の確認及び施設利用者へのヒアリングによるマウスの所有講座の特定並びに遺伝子検査の結果、4月7日（木）に遺伝子組換えマウスであることが確認された。

4. 発生原因

ケージ交換時に、離乳前であったためケージ内の匹数確認を行っていなかったこと、また、当該マウスが生後2～3週間程度と小さく床敷に潜ると見つけにくいいため、汚れた床敷に混入して廃棄されてしまったと判断しております。

5. 生態系及び環境への影響

以下の点から、生態系及び環境への漏出はなかったと判断しています。

- ・当該廃棄袋は医療廃棄物専用の厚手のもので、廃棄の時点で密封されており、破れた形跡がなかった。また、同日に搬出された他の廃棄袋の中には動物の混入がないことを確認した。
- ・遺伝子組換えマウスが管理区域外で発見された他の事案の有無についての調査を動物実験の実施歴がある全33講座を対象に実施し、発見された1匹以外は管理区域外に出ていないことを確認した。

6. 再発防止策

本学動物実験委員会及び遺伝子組換え実験安全委員会で決定した以下の再発防止策を行います。

- ・動物管理部門から動物実験従事者への動物管理における確認作業厳守の徹底の注意喚起
- ・ケージの床敷交換時のマウスの匹数及び残存マウスの確認の徹底
- ・廃棄物保管庫への廃棄袋の搬出前のマウスの混入有無の確認
- ・動物実験従事者全員に対する今回の事案を踏まえた緊急の教育訓練の実施及び今後の教育訓練の頻度を上げた実施